

非行や犯罪を少しでも減らし 安心して暮らせるまちづくりのため 日夜頑張っています



ひつたくり防止対策推進本部
狭山警察署
少年非行総合対策推進本部

生活安全課は狭山警察署の2階にあります。犯罪や少年の非行を未然に防ぐための対策本部が設置されていて、警察の意気込みを感じました。

REPORTER'S EYE



【リポーター】
栗原知絵さん(上広瀬在住)
リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがレポートします。

少年による非行の防止と 地域の安全のために

皆さんは警察という言葉から何を連想しますか。おまわりさん、犯罪、免許証の更新など、いろいろな思い浮かぶのではないのでしょうか。警察にも交通事故の防止や捜査などたくさん仕事がありますが、今回は市民の生活に密着した生活安全課を石川課長さんの案内でレポートします。

県内には37の警察署があり、狭山市と入間市の約30万人の人びとを犯罪から守ってくれる狭山警察署には215人の警察官が勤務しています。生活安全課には13人が所属し、各種許認可事務、少年の非行や犯罪、薬物や銃の所持に関する事、そして地域安全活動などを受け持ち、これらの仕事に関する法律はなんと600以上もあるのだそうです。最近では薬



少年の非行防止と地域の安全のために
警察官と市民が話し合っている様子。

物やナイフの所持など、少年に関する犯罪が新聞などでも取り上げられています。少年の非行防止には警察でも特に力を入れているとのこと。県内で補導される14歳～19歳の少年は、年間7千500人もいると聞いて驚きました。ここ数年、件数に大きな変化はないものの、少年の非行は凶悪化・粗暴化・集団化し、また薬物や刃物を持つなど深刻になってきています。少年といえども凶悪で悪質な事件に対しては強く対応する一方、相談など心のケアも行ないながら少年非行問題を考える「強くやさしい少年警察」をめざしているとのこと。心強く感じました。また、地域や学校、家庭などと連携して、それぞれの立場で非行防止を実施しているのだそうです。学校に出向いて子どもたちに直接話したり、保護者にも家庭での基本的な生活について説明するなど、大変な努力をいらつしやいます。「非行の前兆と



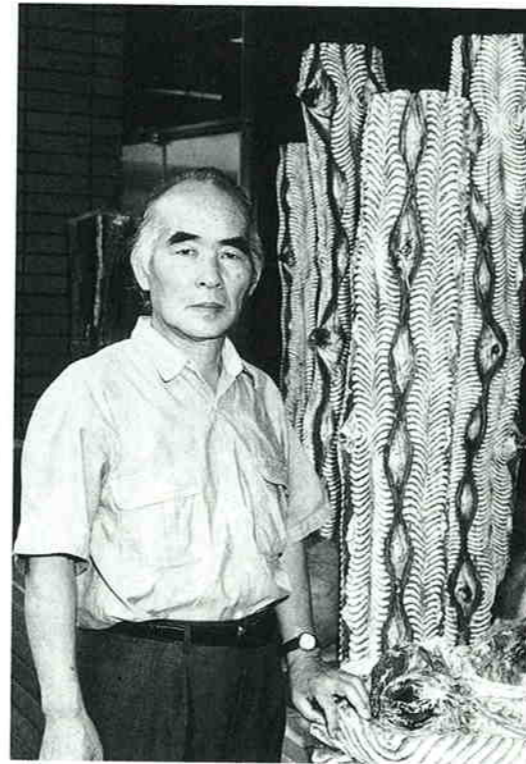
困ったことや悩みごとがあったら、小さなことでも遠慮しないで相談してください。
狭山警察署 ☎953-0110

木の勢いに魅力を感じます 自然が持っている生命感を 大切にしたいですね



HITO

水村 昭さん (彫刻家)



水村さんの後ろに見えるのが、ミュージアムで開催された「膨張10×10展」で高い評価を受けた「森の死と蘇生」の一部。水村さんが手にする「のみ」で、新たな命が吹き込まれます。

祇園にお住まいの水村さんは、子どものころから絵や彫刻が好きで、高校生の時には先生について習っていました。このまま続けていくには学校で学ばなくてはならないと思い、東京芸術大学で彫刻を専攻しました。卒業後は美術科の教師として中学校の教壇に立ち、多くの生徒に芸術の素晴らしさを教える一方で創作活動を続けてきましたが、もともと創作に打ち込みたいとの思いから25年間続けた教職を退職し、自宅に彫刻の庭ギャラリーを開設しました。

作者が心に描いているものを表現する方法として「彫刻は現実の立体によって周囲をとり込んで空間を創り出し、絵画は平面に空間を表出する」とおっしゃる水村さんは昭和50年から約10年間、主に石を素材に意欲的に創作活動をしてきましたが、現在は木の彫刻と絵画を主に個展な



皆さんもこの作品に見覚えがあるのではないのでしょうか。山公園の都市緑化植物園にある「膨張する六面体」、4トンもある石に取り組んだ水村さんの力作です。

どで高い評価を受けています。水村さんが一本の木をどう造形化できるか模索していた時に、たまたま通りかかった雑木林の中に切り倒された丸太が積み重ねられていたのを見て、「芸術による創造の森がつかれないものか」「丸太をよみがえらせたい、原木の中から何かが生み出される感じを表現したい」というイメージが膨らみ、ゆるやかな波形をくり返して彫り込んだ柱を何本も創ることで森を表現しました。新たに命を吹き込まれた34本の柱を組み合わせたこの作品は、昨年所沢市のミュージアムで開催された「膨張10×10展」で「森の死と蘇生」と題して発表されました。

「木の勢いに魅力を感じます。自然がもともと持っている生命感に、手助けした作品づくりをこれからも続けていきたいですね。」とおっしゃる水村さんの芸術への取り組みはまだまだ続きます。

9月12日には、水村さんの彫刻をはじめギター、絵画、舞踏の四つの個性が新しい表現の可能性をめぐり市民会館でぶつかり合います。今後、も各方面で活躍されることでしょう。

私の趣味

ゲートボール

新井利子さん(水野在住)



「仲間づくりに一緒にやりませんか」と誘われて、ゲートボールを始めから20年近くになります。ゲートボールもほかの競技と同じように人の結びつき、チームワークがとても大切で、力を合わせて試合に勝ったときはうれいものです。単に打者として参加するだけでなく、昭和57年に3級審判を取得したのをきっかけに経験を重ね、平成7年には日本ゲートボール連合1級審判員の資格をとりました。審判はルールに従ってコールするのはもちろん、きびきびとした動作で人の模範にならなくてはなりません。みんなの試合を見ることが大変勉強にもなります。一生懸命続けてきたおかげで、昨年12月には日本ゲートボール連合から功労賞もいただきました。8月には秩父市での北関東大会、秋には愛知県での全国大会にも参加する予定ですが、多くの人と交流し、人の輪が広がることが何よりの励みになっています。この楽しい趣味を元気でいる限り続けていきたいと思っています。